

# 専門図書館と大学図書館との相互協力

## - 薬学図書館協議会の活動を通して -

神戸薬科大学図書館 木口敏子

日本薬学図書館協議会(薬図協)は、1955年に薬学系大学図書館29館により発足した。当時、医学図書館における文献相互貸借サービスに恩恵を受け、図書館機能の重要性を認識した教官が中心になり、薬系大学に働きかけを行い設立された。翌年には特別会員制度が設けられ製薬企業が参加した。製薬企業の参加を求めたのは、財政基盤の強化と我が国の産業界の中でも高いレベルにあるとされる製薬企業の情報部門の活動を、大学側の参考にしたいとする考えがあったと言われる。このように、薬図協は教官による主導と大学・製薬企業・研究所等の薬学系情報サービス機関を網羅した集合体を形成している点に特色がある。

本学図書館は薬図協発足当時から、常に積極的にその活動に参加している。

2003年4月現在、薬図協は薬学系大学図書館43館、製薬企業図書館等44館で構成され、「薬学図書館事業の振興を図り、薬学教育および研究に寄与すること」を目的に活動を行っている。組織は以下ようになっており、理事会・評議会のもと、六委員会が設置されている。

### 組 織

\* 会 長

\* 理事会 (理事)

\* 評議員会 (評議員)

\* 監 事

\* 地区連絡委員 (六ブロック)

\* 委員会 (六委員会)

機関誌「薬学図書館」編集委員会

日本薬学会年会「薬学図書館協議会」部会企画・運営委員会

広報委員会

雑誌問題検討委員会

教育・研究委員会

要覧編集委員会

\* 事務局

六委員会のなかで、雑誌問題検討委員会は、現在、電子ジャーナルコンソーシアム形成に取り組んでおり、大学向けと企業向けの提案を行い、コンソーシアム会員として新しい会員の参加を認めるなど、大きな成果をあげている。

薬図協は創立50周年に近づいており、全世界的な規模で情報通信基盤が整備されるなかで、様々な課題を抱えながら新たな展開の時期を迎えている。